

雷別ドングリ倶楽部が炭焼きと花炭、除伐作業を体験



師走を目の前にした11月29日(土)、標茶町と厚岸町の両町にまたがるパイロットフォレストで、会員10名が出席して簡易炭窯を使用しての炭焼きとブリキ缶での花炭作り、アカエゾマツ人工林の除伐作業を体験しました。

日頃は標茶町雷別地区の自然再生事業地で活動しているドングリ倶楽部ですが、今回は炭焼きが体験できるよう4基の簡易炭窯が設置されているパイロットフォレストで実施しました。



炭焼きでは炭窯2基を使用し、1基はカラマツを、もう1基はシラカンバやイタヤカエデの広葉樹を炭材として焼きました。着火してから約4時間ほどで火止めをしましたが、残念ながら1日は窯を冷まさないと炭を取り出せないことから、来春の活動時に出炭することになっています。

花炭作りは、会員が持ち寄った栗のイガイガやオオウバユリの実、マツカサなどをブリキ缶で焼きました。また、カボチャ2個を炭窯に入れ炭材と一緒に焼きました。カボチャの出来映えは見ることはできませんでしたが、ほかの花炭は栗のイガイガやトドマツの葉っぱの小さなどころまできれいに焼き上がりました。



アカエゾマツ人工林では、枝葉が混み合って日光が入らずに下層植生が生えていないところで、植栽木を間引きする除伐作業を行いました。初めに伐採の方法などを確認し、安全に留意しながら実施しました。20本程度しか伐採できませんでしたが、春には明るくなった林床に植生が復活することを願っています。